

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立吹上秋桜高等学校	Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	昼夜開講、単位制総合学科の定時制高校の趣旨や特性を踏まえ、目指す学校像が設定されている。生徒の実態やニーズ、保護者の期待に対して、学校の前向きな姿勢を全面的に打ち出した適切かつ明瞭な学校像である。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。学校の置かれた状況や地域から寄せられる期待、将来展望などを改めて把握・確認した上で、中期的な視点から検討・整理して目標の重点化を進めることが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	保護者対象の教育相談環境の整備など、重点目標の達成に向けて必要な取組が評価項目に挙げられている。学校自己評価システムが学校の実態に即して運営されており、学校関係者の意見などがうまく活用されている。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	「コスモスステップ（学び直しのためのプログラム）」による基礎学力の向上など組織的・計画的な取組の成果が見え始めている。評価指標については、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった視点から、教職員間で目標の達成イメージが共有できるような分かりやすいものを設定することが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の課題を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。教職員の共通理解を深め、課題の解決に向けて学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	年度評価や学校関係者評価などを基に、取り組むべき課題や改善策が示されている。企画委員会などの組織を十分に活用して、分掌・年次等と学校全体を連携させ、効果的にPDCAサイクルを回し、新たな活気ある取組につなげていただきたい。
特記事項		